

日本における 医療のアウトバウンドの 展望と課題

提出日

2017年1月27日

指導教授

斎藤 正武 准教授

中央大学商学部

経営学科 13C1112012L 高木圭太

会計学科 13C2235010G 押野博年

日本における医療のアウトバウンドの展望と課題

中央大学 商学部 斎藤正武ゼミ
経営学科 13C1112012L 高木圭太
会計学科 13C2235010G 押野博年

近年、日本国内で医療のアウトバウンド(輸出)が注目されている。医療のアウトバウンドとは自国の医療技術、人材、教育、サービスを海外に送り運営を行い、相手国に貢献することである。アメリカ、タイ、欧州、韓国などの病院経営企業は医療のアウトバウンドが盛んで進出国先を増やし、インバウンド事業につなげている。一方、日本においてもアベノミクスの成長戦略の一つとして医療のアウトバウンドが推進されているが、医療のアウトバウンドが思うように進んでいない。

またこのような状況の中で、経済産業省は医療の国際展開を担う中核機関である「一般社団法人 Medical Excellence JAPAN(MEJ)」を設立させた。この機関は効率的に医療のアウトバウンドを行い、世界にパッケージ化された日本式医療を提供できる仕組みづくりを進めており、具体的には医療国際展開協力フォーラム(MEJフォーラム)、国際展開支援官民ミッション団、各国の医療ニーズの調査・実証調査を行っている。これによりオールジャパン体制で官民一体となるための役割を担っている Medical Excellence JAPAN が医療のアウトバウンドの発展に寄与する仕組みが出来上がっている。

このような背景のもとで、本研究の目的は、日本において、国策として取り上げられているのにも関わらず普及していない医療のアウトバウンドが、今後どのように発展していくのかを考察することである。具体的には、日本で医療のアウトバウンドに取り組んでいる機関に対しヒアリングによる実態調査を行い、検証を行った。

その結果、Medical Excellence JAPAN の本来の目的に対して十分に機能していない点、経済産業省から配布される予算の使われ方、ビジネスとしての捉え方に問題があった。日本でも医療のアウトバウンドが発展する可能性はあるが、発展していくには時間がまだまだかかると結論付けられる。今後の課題としては、医療のアウトバウンドを管轄している経済産業省、Medical Excellence JAPAN 側のヒアリング調査を行い、国が抱える問題点と実際に医療のアウトバウンドを行う機関側の問題点を比べて、より効率的に医療のアウトバウンドを進める仕組みについて考察する必要がある。